

第2510地区 第11グループ



2011~2012

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

# 函館北ロータリークラブ会報

2011~12年度  
国際ロータリーのテーマ

こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために



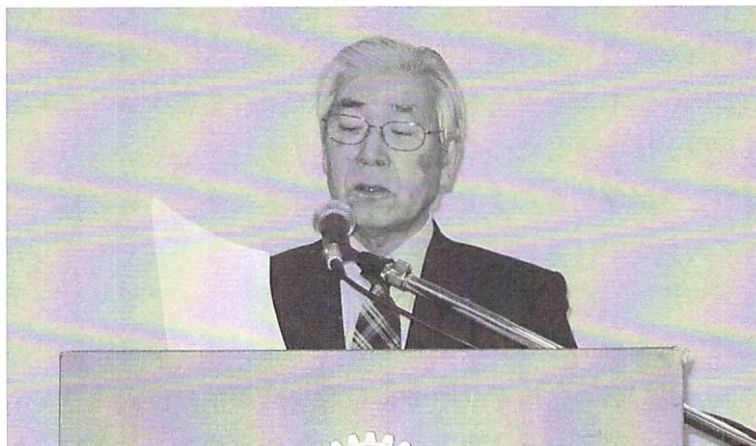
Reach Within to Embrace Humanity

2011~12年度  
国際ロータリー会長

カルヤン・バネルジー

*Kalyan Banerjee*

藤田正男 会長 テーマ —— こころから、心へ、すべてに感謝し、喜びを分かち合おう ——



3月28日 「CLPについて」 CLP実施特別委員会 松見 修二 委員長

《第2331回例会》 第36号 4月4日(水)

## 本日のプログラム

市役所出前講座 「函館市の防災対策について」

函館市役所 総務部 参事 武田 忠夫 氏

★会 長 藤 田 正 男

★幹 事 小 河 博 保

例会場：函館国際ホテル  
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30

〒040-0064 函館市大手町5-10  
事務局：函館市大手町5-10 二子ビル4F

TEL23-5151  
TEL23-3870

建築設計・工事監理、既存建築物耐震診断、既存建物老朽度調査



# 株式会社 北匠建築設計事務所

代表取締役 松見 修二

〒041-0853 函館市中道1丁目14番1号  
TEL(0138) 51-1650 FAX(0138) 51-1571

(広告掲載：松見 修二 会員)

函館北ロータリークラブのホームページアドレス <http://www.hakodate-north.org/>

【4月3日現在のアクセス数：12780件 (+32件)】

## ◎3月14日出席報告 (中川 洲平 委員長)

会 員	24名	出席率対象会員	24名
		出席規定免除会員(a)	0名
		出席規定免除会員(b)	0名
当日出席	18名	当日欠席	6名
他クラブ出席	3名	出席合計	21名
出席率		87.50%	

・テレフォンサービス(例会移動案内) 電話 26-3170番

次回・4月11日  
プログラム

地区協議会報告

3月28日の記録

◎司 会 藤田 正男 会長

◎斉 唱 我等の生業、四つのテスト

◎会長報告 藤田 正男 会長

- 4月6日締め切りの国際ロータリー2011-2012会長賞について、申請基準を満たしているので申請することにしました。

◎委員会報告

○クラブ奨学会委員会

- ・当クラブ奨学生でした福田直子さんより現況報告書が届きました

卒業、就職してから、あっという間に1年が過ぎてしまいました。私の配属先は企画振興課というところで、企画振興と行財政に関する事務をします。具体的には、総合計画の策定や予算の編成などを担当します。今の仕事にもようやく慣れたようで、役場での仕事にやりがいを感じているところです。これからも懸命に頑張っていくつもりです。

◎幹事報告 小河 博保 幹事

- 4月1日よりロータリーレートが1ドル現行78円から82円に変更となります。
- 米山梅吉記念館より館報が届きましたので回覧いたします。
- 例会終了後、臨時理事会を開催いたします。

◎親睦活動委員会 山下 清司 委員

ニコニコBOX投入報告

藤田会長・小笠原会員・森 会員・山下(清)会員・増田会員・南木会員

……松見CLP実施特別委員長、卓話よろしくお願ひ致します。

松見会員……本日卓話します。

弗田会員……ニコニコボックスに協力。

◎「CLPについて」 CLP実施特別委員会 松見 修二 委員長

国際ロータリー-2,660地区 ロータリー百科事典より転記

1) CLP導入の目的

CLPの最大の目的は、クラブを長期的に如何に発展させ、活性化を図って行くかと云うところにあります。「CLPはクラブ組織と活動の簡略化」と捉えているクラブがあるようですが、これは間違いです。クラブ組織と活動を簡略化しますと、クラブはむしろ衰退へ向かう危険性があります。会員の維持と新会員の勧誘を図り、クラブを更に発展させて行くためには、クラブ自体を魅力ある、生き生きとしたクラブへと絶えず変えて行く努力が必要です。CLPはその様な目的をもって各クラブへ推奨されたのです。

## 2) C L P 導入の検討事項

クラブを活力のあるものへ高めて行くために、クラブは次のような点を検討し、C L P を導入するように要請されています。

1. クラブの発展に繋がるような長期目標を立案する。
2. 長期目標を支える年次目標を設定する。
3. クラブ協議会などの会合を通じて会員全員がクラブ活動に参加していることを実感出来るようにする。
4. クラブ内及び地区との情報伝達をガバナー補佐や地区委員を通じて円滑に図る。
5. 年度から年度への継続性を保つため、クラブ指導者間の協力を緊密に保つ。
6. 独自のクラブ運営が反映出来るように、クラブの長期計画や細則を適宜修正する。
7. クラブ会員間の親睦が深まるような奉仕と親睦の機会を提供する。
8. 会員全員がクラブのプロジェクトや奉仕活動に活発に関与するように計画する。
9. 会員に対する包括的な研修プランを立案し、指導者を育成する。

## 3) クラブの多様性とC L P

クラブは、その生い立ち、規模、会員の職業分類、クラブの置かれている地域特性など、その背景はバラエティに富んでおります。ロータリーはその様なクラブの多様性を尊重しており、C L P の検討に当たっては、各クラブが持つそれぞれの特色を活かし、魅力あるクラブ作りに励むように奨励されています。当2660地区内の、特に都市型クラブはクラブ拡大が続いた時代に、組織面、運営面、そして活動面で、殆どのクラブが画一的に設立され、各クラブの特徴がなかなか見出せませんでした。

その後、過去10数年間にわたる社会・経済情勢の変化で、地区全体としては毎年会員の減少が続いております。但し、各クラブの会員数が一律に減少しているわけではありません。会員減少が著しいクラブとそうでないクラブと、会員減少の状況はむしろ二極化の傾向にあります。C L P が推奨されている所以は、「あのロータリークラブに入りたいな」というクラブの魅力作りにあります。クラブ活動に魅力があれば会員候補者は自然に集まってきます。会員維持も出来ます。当地区では、各クラブがC L P 導入の検討にあたっては大規模クラブも、小規模クラブも、85クラブがそれぞれの多様性を生かして、85通りの魅力あるクラブ作りを行なってください、と説明しております。

松見委員長からはクラブ細則の改定案や、既にC L P を導入している他地区のクラブの委員会構成をもとにして当クラブ用にアレンジした組織構成案を示しながら、C L P について詳細に説明していただきました。その後クラブ会員から質疑応答もあり、C L P 導入に向け本格的に議論すべき時がきていることを実感した松見委員長の卓話でした。課題はまだまだあると思いますが、当クラブのような少人数クラブが活性化するために全会員で議論して、より魅力ある函館北ロータリークラブとなることを目指したいと思っております。(渡部記)